

令和2年度

事業報告書

自 令和2年 1月 1日

至 令和2年12月31日

公益財団法人 競走馬理化学研究所

令和2年度事業報告

I 概要

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う世界的な混乱の中で、わが国の競馬は、無観客による開催とインターネット投票に支えられ、中央競馬及び地方競馬ともにその売り上げは堅調に推移した。

こうした状況下、競走馬理化学研究所は、新型コロナウイルス感染症の感染予防とまん延防止の措置を講じた上で、競馬の開催とその公正確保に必要な各種検査を着実に実施した。また、検査の国際標準化、効率化及び高度化を目指した研究開発を行うとともに、新たな検査体制に必要な人員の採用と教育訓練並びに機器、設備及び施設の整備を進めた。

薬物検査事業においては、競馬主催者、飼料業者等からの依頼に応じて、競走馬、騎手、飼料等を対象に検査を実施した。また、競馬における薬物陽性事案に対応した原因究明及び再発防止の策定に取り組んだほか、令和元年12月に開始した新たな飼料等薬物検査制度を通じて禁止薬物が含まれる飼料等の流通防止に取り組んだ。

また、品質保証に関する活動として、4年に一度のISO/IEC 17025認定の更新及び薬物検査の情報管理の高度化等に取り組んだ。

DNA型検査事業においては、血統登録機関等からの依頼に応じて、軽種馬の親子判定及び個体識別検査等を実施した。

研究事業においては、日本中央競馬会から委託された「飼料等薬物検査における薬物基準量の設定に関する研究」、「飼料等薬物検査における効率的な検査法の開発・研究」及び「糖質コルチコイド投与後のマイクロRNA発現に関する調査・研究」を実施した。

一般化学分析事業においては、馬伝染性子宮炎の検査、競走馬の遺伝子検査等を実施した。

「新薬物検査体制確立事業」においては、令和5年に開始する新薬物検査に向けて、分析機器及びラボラトリー情報システムの整備等を行った。また、これまでに構築した新たな薬物検査法を用いて薬物の使用実態調査を行った。また、薬物検査機関としての国際指定に向けた技能試験を受検し、合格したが、新型コロナウイルス感染症の影響でその後の審査は延期された。

「競走馬の遺伝子ドーピング検査法確立事業」においては、検査用機器の導入と検査体制の整備をすすめるとともに、分析法の評価、遺伝子ドーピングの実態調査及び遺伝子ドーピング物質の投与実験を行った。

II 事業内容

1 薬物検査事業

1) 競走馬の薬物検査

(1) 禁止薬物の検査（レース分）

検査件数 45,368 件

陽性件数 1 件

中央競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
札幌	505	中山	1,549	阪神	1,733
函館	433	東京	1,623	小倉	720
福島	720	中京	830	小計	10,383
新潟	937	京都	1,333	再検査	1
				計	10,384

地方競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
帯広	3,447	大井	3,325	姫路	316
門別	2,213	川崎	2,057	高知	3,102
盛岡	1,665	金沢	2,055	佐賀	2,838
水沢	1,547	笠松	2,146	小計	34,984
浦和	1,777	名古屋	2,855	再検査	0
船橋	1,669	園田	3,972	計	34,984

(2) 規制薬物の検査（レース分）

検査件数 2,372 件（日本中央競馬会 1,687 件、地方競馬主催者 685 件）

陽性件数 2 件

(3) 競技外検査

検査件数 6,450 件（日本中央競馬会 5,324 件、地方競馬主催者 1,126 件）

陽性件数 0 件

2) 飼料等の薬物検査

検査件数 956 件

陽性件数 5 件

依頼者	区 分				計
	カテゴリーA	カテゴリーB	カテゴリーC	イプラトロピウム	
日本中央競馬会	8	0	35	5	48
地方競馬主催者	4	0	0	0	4
飼料業者等	94	6	740	64	904
計	106	6	775	69	956

注 カテゴリーA：イプラトロピウムを除く全ての禁止薬物

カテゴリーB：禁止薬物のうち自然界に存在する15薬物

カテゴリーC：IFHAにおいて国際残留限界値が定められている6薬物

3) セール上場馬の薬物検査

検査件数 231 件 (日高軽種馬農業協同組合 158 件、
千葉県両総馬匹農業協同組合 73 件)

陽性件数 0 件

4) 騎手の薬物検査

検査件数 66 件 (日本中央競馬会 8 件、地方競馬主催者 58 件)

陽性件数 0 件

5) 馬術競技馬の薬物検査

検査件数 19 件 (日本馬術連盟)

陽性件数 0 件

6) その他の薬物検査

(1) 育成馬のアナボリックステロイド検査

検査件数 75 件 (日本中央競馬会)

陽性件数 0 件

(2) 国際交流競走出走予定馬の薬物検査

検査件数 4 件 (日本中央競馬会)

陽性件数 0 件

(3) 能力検査出走馬の薬物検査

検査件数 6件 (帯広市)
陽性件数 0件

(4) 薬物陽性に関連した検査

検査件数 47件 (日本中央競馬会)
陽性件数 1件

(5) その他の薬物検査

検査件数 1件 (地方競馬主催者)
陽性件数 0件

7) 薬物検査法審議委員会

(1) 委員

氏名	職名等	備考
尾崎 博	岡山理科大学獣医学部教授	再任
川原 貴	大学スポーツ協会副会長	//
興石 一郎	群馬大学大学院保健学研究科教授	//
下田 実	東京農工大学名誉教授	//
豊島 聰	日本薬剤師研修センター理事長	//
本間 浩	薬学教育協議会代表理事	//
吉田 武美	薬剤師認定制度認証機構代表理事	//

任期：令和2年4月1日～令和4年3月31日

(2) 委員会の開催

第57回薬物検査法審議委員会を12月22日にリモート開催し、検査法の一部改正が原案のとおり承認された。

(審議事項)

「尿を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準」の一部改正

「Ⅱ 尿中のアナボリックステロイドの検査法及び判定基準 (MU-6)」

(ボルデノンのスクリーニング検査及び定量試験の一部変更)

8) 公認競馬化学者協会 (AORC) 主催の技能試験への参加

AORC が各国の競走馬の薬物検査機関に対して毎年提供する技能試験に参加し、正答率 100%の成績を収めた。

9) 国内外の会議及び学術集会への参加

10 月に香港で開催予定であった第 23 回競馬分析化学者及び競馬獣医師の国際会議 (ICRAV) は、新型コロナウイルス感染症の影響で 1 年延期となった。

12 月 3 日に日本中央競馬会本部で開催された第 22 回禁止薬物問題に関する連絡協議会に、薬物分析部長が諮問委員として参加した。

10) 品質保証に関する活動

(1) ISO 試験所認定審査の受審

3 月 26 日及び 27 日に日本適合性認定協会 (JAB) による ISO/IEC 17025: 2017 (JIS Q 17025:2018) 第 4 回更新審査を受審し、試験所認定の維持が認められた。

(2) 内部監査及びマネジメントレビューの実施

ISO/IEC 17025 の規格要求事項に則って、競走馬薬物検査業務に関する内部監査及びマネジメントレビューを実施した。

(3) 薬物検査の情報管理の高度化

ISO/IEC 17025 の規格要求事項並びに新薬物検査体制における情報管理及びトレーサビリティの高度化を図るため、1 次開発したラボラトリー情報管理システム (LIMS) の有効性を確認した。

2 DNA 型検査事業

1) 軽種馬の親子判定及び個体識別検査

(1) 親子判定検査

検査件数 7,407 件 (ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)
親子関係否定例 1 件

(2) 個体識別検査

検査件数 362 件 (ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)

2) 軽種馬の毛色の遺伝子検査

検査件数 905 件 (ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)

3) 馬の新生子黄疸予防のための血液検査

検査件数 58 件 (日本軽種馬協会)

4) その他の検査

(1) ユニバーサルドナー選定のための検査

検査件数 28 件 (馬生産者他)

(2) 軽種馬以外の DNA 型検査

検査件数 54 件 (日本馬事協会 48 件、全国乗馬倶楽部振興協会 3 件、
宮崎大学 3 件)

(3) 軽種馬以外の毛色の遺伝子検査

検査件数 9 件 (日本馬事協会)

5) 国際動物遺伝学会 (ISAG) 主催のホースコンパリソンテストへの参加

ISAG が実施するホースコンパリソンテスト 2020-2021 に参加登録を行い、12 月にテストサンプルを受領して、分析を開始した (報告期限：令和 3 年 3 月末)。

6) 国内外の会議及び学術集会への参加

第163回日本獣医学会学術集会(9月14日～30日、オンライン)及び第33回日本ウマ科学会学術集会(11月30日～12月10日、オンライン)に参加し、DNA型の分析技術や遺伝子研究に関する情報収集を行った。

3 研究事業

1) 日本中央競馬会からの委託研究

(1) 飼料等薬物検査における薬物基準量の設定に関する研究

本研究は、国際競馬統括機関連盟(IFHA)により国際残留限界値(IRL)が設定されている禁止薬物のうち、カフェイン、テオフィリン及びテオブロミンについて、馬が摂取しても差し支えない1日当たりの薬物量(薬物基準量)を設定することを目的とする。薬物を投与した馬から採取した尿及び血漿を高速液体クロマトグラフィー/タンデム質量分析法により分析し、薬物基準量を設定した。

(令和2年度単年度計画)

(2) 飼料等薬物検査における効率的な検査法の開発・研究

本研究は、飼料等薬物検査における検査期間の短縮を目的として、各種飼料等にそれぞれ適した効率的・効果的な検査法を開発した。高速溶媒抽出装置と高速液体クロマトグラフ/タンデム質量分析計を組み合わせた検査法を構築し、バリデーション試験により飼料等薬物検査の検査法としての妥当性を確認した。

(令和2年度単年度計画)

(3) 糖質コルチコイド投与後のマイクロRNA発現に関する調査・研究

本研究は、3年計画で実施し、糖質コルチコイドが生体に及ぼす影響を客観的に評価するバイオマーカーとして利用可能なマイクロRNAの網羅的解析法の開発及び薬物検査で検出された糖質コルチコイドの由来を判断する方法の確立を目的とする。

初年度である令和2年度は、次世代シーケンス用のライブラリ調製に適したRNA抽出及び濃縮法を確立するとともに、血漿中マイクロRNAを検出する網羅的解析手法を構築した。また、馬にデキサメタゾン及びヒドロコルチゾン製剤を投与し、血漿中の薬物濃度推移を調べた。

(令和2年度から3年計画)

(4) 委託研究成績の報告

令和元年度日本中央競馬会委託研究の成績を報告書に取りまとめ、11月30日に日本中央競馬会馬事公苑宇都宮事業所において報告会を開催した。

2) 農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等を対象とする理化学的研究及び衛生学的研究

令和2年度は該当する研究は行われなかった。

4 一般化学分析事業

1) 馬伝染性子宮炎の検査

検査件数 2,070件 (日高家畜衛生防疫推進協議会他)

陽性件数 0件

区 分	検査件数
馬伝染性子宮炎侵入防止事業	1,258件
馬伝染性子宮炎蔓延防止事業	322件
その他(上記事業以外)	490件

2) 競走馬の遺伝子検査

(1) スピード遺伝子検査

検査件数 172件 (馬主他)

(2) 体高遺伝子検査

検査件数 164件 (馬主他)

3) その他

(1) 木曾馬種の保存事業における受託研究

受託件数 1件 (木曾町)

(2) ウマ血漿中のコルチゾール濃度測定

受託件数 2件 (日本中央競馬会)

(3) ブタ血漿中のテオブロミン濃度測定

受託件数 1件 (日本大学)

(4) ウマ血漿中のモルヒネ及びモルヒネ抱合体濃度測定

受託件数 1件 (日本中央競馬会)

(5) 海外輸出馬の薬物検査

検査件数 3件 (日本軽種馬協会)

(6) 重種馬におけるユニバーサルドナー適性に関する調査

調査件数 1件 (49頭) (家畜改良センター十勝牧場)

5 新薬物検査体制確立事業

本事業は、国際標準を満たす新検査法を用いた薬物検査体制を構築することを目的とし、日本中央競馬会からの助成により4年計画で実施している。2年目となる令和2年度は、IFHA及び国際馬術連盟(FEI)による薬物検査機関の指定を取得するための準備を進めるとともに、新たな薬物検査体制の構築に必要な事業を実施した。

1) 分析機器・システムの整備

液体クロマトグラフ高分解能質量分析計等の分析機器等を購入し、薬物の使用実態調査及び新薬物検査体制に必要な検査機器を整備した。また、作業記録、分析データ等を一元管理するラボラトリー情報管理システム(LIMS)について、1次開発を終了した。

購入機器及び整備システム	数量
液体クロマトグラフ高分解能質量分析計	1
自動固相抽出装置	3
プレートリーダー	2
入退室管理システム改造	1
超低温フリーザー	1
薬用保冷庫	1
その他汎用機器	6

2) 国際的な薬物検査機関としての指定の取得・維持

IFHA 及び FEI の薬物検査機関の指定については、3 月に IFHA が実施した技能試験に合格し、また、5 月に検体輸入に関する禁止品輸入許可証の送付手続きを簡略化した。その後は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で海外審査員による現地審査が延期となり、取得には至らなかった。

3) 競馬検体を用いた実態調査

新検査法を用いて、約 800 件（尿約 500 件、血液約 300 件）の国内レース検体を対象とした薬物の使用実態を調査するとともに、分析データを集積しながら、必要に応じたデータ解析法の改良を行った。

6 競走馬の遺伝子ドーピング検査法確立事業

本事業は、平成 29 年度から 3 年間実施した「競走馬の遺伝子ドーピング及び遺伝的健全性対策事業」において開発した分析法を用いて、不正な遺伝子操作によるドーピングの検査法を確立することを目的とし、日本中央競馬会の助成により令和 2 年度より 3 年計画で実施する。初年度である令和 2 年度は、検査用機器を導入して検査体制の整備を行うとともに、遺伝子ドーピング検査法の確立に必要な分析法の評価等を実施した。また関連する国際会議に参加した。

1) 検査用機器の導入

遺伝子ドーピング検査に必要な DNA 自動抽出装置等の機器を購入し、多検体処理が可能な検査体制の整備を行った。

購入機器	数量
DNA 自動抽出装置	1
スーパーフリーザー	1
冷却遠心機	1
遠心機	1
核酸濃度測定器	1
ライブラリーQC 調整器アップグレード	1
PCR 装置	2

2) 遺伝子ドーピング検査法の確立

(1) 分析法の評価

新たに開発した遺伝子ドーピング物質（12種類）の標準物質について、希釈・保存安定性を調べた結果、低濃度に希釈された標準物質でも6か月にわたり安定して分析に使用できることが確認された。また、遺伝子ドーピング物質の投与実験検体を用いて、検体の安定性について調べた結果、冷蔵保存で14日間は分析に影響しないことが確認された。

(2) 実態調査及び投与実験

日本中央競馬会トレーニングセンター入厩検査時に採取した血液検体約2,000件に対して実態調査を実施した結果、全て陰性であることが確認された。また、馬への投与実験により、遺伝子ドーピング物質の検出試験を実施した結果、本分析法により全ての投与馬の血液から遺伝子ドーピング物質の検出が可能であった。

(3) 生体サンプルバンク構想

遺伝的健全性対策の一環として、国際的に検討が行われている生体サンプルバンク構想に対応するため、長期間にわたり多頭数の競走馬の生体試料を保管・管理する体制の整備を行った。また、サラブレッド5頭を対象に全ゲノム解読を行い、全ゲノム解読データベース情報の一部とした。

(4) その他

遺伝子改変の痕跡を検出する分析法として、ターゲットリシーケンスによる遺伝子検出法の検討を行い、約50遺伝子を一斉検出できる分析法を開発した。更に核酸医薬品を検出する分析法として、質量分析装置を使用した分析方法を開発するとともに、ミニプタを使った核酸医薬品の投与実験を実施した。

3) 国際会議への参加

下表に示す国際会議(オンライン)に出席し、海外の遺伝子ドーピング及び遺伝子改変に関する動向や最新の分析技術及び開発手法について情報収集と意見交換を行った。

期 間	場 所	会 議 名	員数 (名)
5月21日、9月14日、 12月9日	(オンライン)	国際競馬統括機関連盟 (IFHA) 遺伝子ドーピング規制小委員会	1
9月30日	(オンライン)	国際血統書委員会 (ISBC) 第45回年次会議 ISBC 戦略会議	1

7 その他事業

令和2年度は該当する事業はなかった。

8 その他

- 1) 研究成果を普及・啓発し、関連する学術の振興に寄与することを目的として、学会発表、論文報告、書籍及び雑誌への投稿を行った。また、講師派遣、広報活動、取材及び見学の受入れを実施した。

(1) 学会発表

表 題	報告学会等
サラブレッドの遺伝的多様性とインブリーディング	第48回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム
ユニバーサルドナー選定のための検査について	//
遺伝子改変サラブレッドの検出法の開発	第62回競走馬に関する調査研究発表会
Detection of non-targeted transgenes by whole-genome resequencing from blood and hair root samples for gene-doping control in horse	第43回日本分子生物学会年会

(2) 論文報告

表 題、著 者、報告誌

Investigation of plasma concentrations of paracetamol, metacetamol, and orthocetamol in Japanese racehorses using liquid chromatography–electrospray ionisation–tandem mass spectrometry.

Ishii H, (Obara T), Kijima-Suda I

Drug Testing and Analysis (2020) 12(7), 929-937

Quantitative analysis of paracetamol, metacetamol, and orthocetamol in equine urine from racehorses in Japan using liquid chromatography–electrospray ionization–tandem mass spectrometry

Ishii H, (Obara T), (Kusano K), Kijima-Suda I.

Drug Testing and Analysis (2020) 12(8), 1196-120

Doping control analysis of GW1516 in equine plasma using liquid chromatography/electrospray ionization Q-Exactive high-resolution mass spectrometry

Ishii H, Leung, GN-W, Yamashita S, Yamada M, (Kushiro A), (Kasashima Y), (Okada J), (Kawasaki K), Kijima-Suda I

Rapid Communication in Mass Spectrometry (2020) 34(23), e8920

A candidate-SNP retrospective cohort study for fracture risk in Japanese Thoroughbred racehorses.

Tozaki T, (Kusano K), (Ishikawa Y), (Kushiro A), (Nomura M), Kikuchi M, Kakoi H, Hirota K, (Miyake T), (Hill EW), Nagata S.

Animal Genetics (2020) 51, 43-50

Microfluidic Quantitative PCR Detection of 12 Transgenes from Horse Plasma for Gene Doping Control.

Tozaki T, Ohnuma A, Kikuchi M, Ishige T, Kakoi H, Hirota KI, (Kusano K), Nagata S.

Genes (2020) 11, 457

Detection of non-targeted transgenes by whole-genome resequencing for gene-doping control.

Tozaki T, Ohnuma A, (Takasu M), (Nakamura K), Kikuchi M, Ishige T, Kakoi H, Hirora KI, (Tamura N), (Kusano K), Nagata S

Gene Therapy (2020) DOI: 10.1038/s41434-020-00185

Whole-genome resequencing using genomic DNA extracted from horsehair roots for gene-doping control in horse sports

Tozaki T, Ohnuma A, Kikuchi M, Ishige T, Kakoi H, Hirota KI, (Hamilton NA), (Kusano K), Nagata S

Journal of Equine Science (2020) 31,75-83

Changes of sires in a breeding farm enables maintenance of DNA-level genetic variation in a produced herd of Hokkaido Native Horses.

(Amano T), Tozaki T, (Takasu M), (Onogi A), (Yamada F), (Kawai M), (Ueda J).

Animal Science Journal (2020) 91, e13318

A case of equine cryptorchidism with undetectable serum anti-Müllerian hormone.

(Murase H), (Ochi A), Tozaki T, Kakoi H, (Munkhtuul T), (Kurimoto S), (Sato F), (Hada T).

Journal of Veterinary Medical Science (2020) 82, 209-211

Genomic inbreeding trends, influential sire lines and selection in the global Thoroughbred horse population.

(McGivney BA), (Han H), (Corduff LR), (Katz LM), Tozaki T, (MacHugh DE), (Hill EW).

Scientific Reports (2020) 10, 466

Decreased genetic diversity in Kiso horses revealed through annual microsatellite genotyping.
(Nakamura M), Tozaki T, Kakoi H, (Nakamura K), (Rajabi-Toustani R), (Ohba Y), (Matsubara T), (Takasu M).

Journal of Veterinary Medical Science (2020) 82, 503-540

Primary sinonasal malignant melanoma with systemic metastasis in a non-gray horse.

(Hatai H), (Hatazoe T), (Seo H), Tozaki T, (Ishikawa S), (Miyoshi N), (Misumi K), (Hobo S).

Journal of Veterinary Diagnostic Investigation (2020) doi: 10.1177/1040638720978561

Single-dose pharmacokinetics of orally administered metronidazole and intravenously administered imipenem in healthy horses and computer-based simulation of pleural fluid concentrations with multiple dosing.

(Kuroda T), Nagata S, (Tamura N), (Kinoshita Y), (Niwa H), (Mita H), (Minami T), (Fukuda K), (Hobo S), (Kuвано A).

Am J Vet Res. 2020 Oct;81(10):783-789. doi: 10.2460/ajvr.81.10.783.

Presence of Antimicrobials in Postrace Samples in Japanese Thoroughbred Racing.

(Mizobe F), Mori M, Nagata S, Yamashita S, (Okada J), (Kusano K).

J Equine Vet Sci. 2020 Aug;91:103115. doi: 10.1016/j.jevs.2020.103115.

Utility of systemic voriconazole in equine keratomycosis based on pharmacokinetic-pharmacodynamic analysis of tear fluid following oral administration.

(Tamura N), (Okano A), (Kuroda T), (Niwa H), (Kusano K), (Matsuda Y), (Fukuda K), (Mita H), Nagata S.

Vet Ophthalmol. 2020 Jul;23(4):640-647. doi: 10.1111/vop.12764.

(3) 書籍及び雑誌への投稿等

表 題	雑 誌
スポーツにおける遺伝子ドーピング	アンチ・ドーピング徹底解説 スポーツ 医薬-服薬指導とその根拠- 107-110 (中 山書店)
【総論】競馬とサラブレッド-競馬が競走馬をつ くり育てる	生物の科学 遺伝 Vol. 74 No. 3, 268-274 (エヌ・ティー・エヌ)
サラブレッドの定義-血統の登録と遺伝学的検 査について	生物の科学 遺伝 Vol. 74 No. 3, 275-280 (エヌ・ティー・エヌ)
3つの遺伝型で推察する有力馬の距離適性	サラブレ 10月号 16-19 (株式会社 KADOKAWA)

(4) 技術指導

新型コロナウイルス感染症の影響により実施しなかった。

(5) 講師派遣（オンラインを含む）

月 日	依 頼 元	内 容
2月20日	全国公営競馬獣医師協会 (石川県・金沢市)	競走馬の薬物検査
4月30日	岐阜大学 応用生物科学部	馬臨床学
10月9日	日本中央競馬会	日本中央競馬会 新規採用獣医職員
12月8日 ～9日	日本中央競馬会	臨床獣医師研修

(6) 広報活動

新型コロナウイルス感染症の影響により実施しなかった。

(7) 取材受入れ

月 日	表題等	掲載誌等
1月14日	競走馬理化学研究所を訪ねて	日本分析化学会誌「ぶんせき」
9月5日	白毛馬初 初重賞Vなるか	毎日新聞朝刊
11月5日	日本在来馬 対馬から全国へ	朝日新聞朝刊
12月9日	G1初制覇へ 白毛馬駆ける	読売新聞夕刊

(8) 見学受入れ

月 日	見学者等	内 容	員数 (名)
1月16日	日本中央競馬会 理事他	見学	3
1月31日	農林水産省 生産局畜産部競馬監督課長他	〃	6
3月5日	地方競馬全国協会 地方競馬教養センター 騎手候補生	見学・講習	10
7月16日	地方競馬全国協会 地方競馬教養センター 調教講習生	〃	5
9月16日	地方競馬全国協会 地方競馬教養センター 騎手候補生	〃	7

11月12日 ～13日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	〃	32
12月4日	日本装蹄協会 装蹄教育センター 装蹄師認定講習会講習生	〃	18
12月10日	地方競馬全国協会 地方競馬教養センター 調教講習生	〃	7

- 2) 令和5年から開始する予定の新薬物検査に向けて、施設の改修工事が日本中央競馬会により実施された。令和2年度は、8月に日本中央競馬会馬事公苑宇都宮事業所内の改修を終え、10月1日をもって役員室、総務部、品質保証室及び関連施設を移転した。その後、薬物検査関連区域等を拡充する目的に沿って、令和3年末の竣工に向けて既存施設の改修工事を実施している。

Ⅲ 総務関係

1 評議員及び評議員会

(1) 評議員

氏名	職名等	備考
秋元 稔弥	地方競馬全国協会 理事	12月11日から
岩元 正文	ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 理事	
木所 康夫	日本中央競馬会 常務理事	
釘田 博文	国際獣疫事務局 アジア太平洋地域代表	
鈴木 邦則	全国公営競馬主催者協議会 常任理事	
田原 文夫	すかいらーく 社外取締役	
横田 貞夫	日本中央競馬会 理事	
生野 等	地方競馬全国協会 参与	12月11日まで

任期：令和4事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

(2) 評議員会の開催

評議員会を次のとおり開催した。

第1回評議員会 3月17日（書面による決議の省略）

（みなし決議事項）

第1号議案 令和元年度事業報告及び決算について

第2号議案 理事の選任について

第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する規程の一部改正について

第2回評議員会 12月11日

（決議事項）

第1号議案 令和3年度事業計画及び収支予算について

第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所定款の変更について

第3号議案 評議員の選任について

2 役員及び理事会

(1) 役員

役職名	氏名	主な経歴	備考
理事長 (常勤)	安齊 了	日本中央競馬会 監事	
常務理事 (常勤)	黒澤 雅彦	競走馬理化学研究所 研究部長	3月31日まで
	岩崎 幸治	地方競馬全国協会 理事	
	側原 仁	競走馬理化学研究所 薬物分析部長	4月1日から
理事 (非常勤)	兼丸 卓美	日本中央競馬会 競走馬総合研究所長	
監事 (非常勤)	谷口 稔明	農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所長	
	佐藤 信博	日本中央競馬会 馬事部上席調査役	

任期：令和2事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

(2) 理事会の開催

理事会を次のとおり開催した。

第1回理事会 2月21日

(決議事項)

第1号議案 令和元年度事業報告及び決算について

第2号議案 理事候補者の選定について

第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する規程の一部改正について

第4号議案 令和2年度第1回評議員会の招集について

第5号議案 役員手当の改定について

第6号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所組織規程の一部改正について

第7号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について

第8号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程実施基準の一部改正について

第9号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所参与及び嘱託に関する規程の一部改正について

第10号議案 薬物検査法審議委員会委員の改選について

第11号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員退職手当支給規程第7条に規定する退職手当の支給について

(報告事項)

1. 令和2年度第1回財産運用検討会の審議結果
2. 令和元年度収支予算の流用結果

第2回理事会 3月11日 (書面による決議の省略)

(みなし決議事項)

議案 令和2年度第1回評議員会の開催を取り止めて書面提案とする件

第3回理事会 6月25日

(決議事項)

第1号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所組織規程の一部改正について

第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について

第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程実施基準の一部改正について

第4号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員特別手当支給基準の一部改正について

(報告事項)

理事の職務の執行状況

第4回理事会 11月20日

(決議事項)

第1号議案 令和3年度事業計画及び収支予算について

第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所定款の変更について

第3号議案 評議員候補者の選定について

第4号議案 令和2年度第2回評議員会の招集について

第5号議案 令和3年度競走馬理化学研究所における新薬物検査体制確立事業実施要領の制定について

第6号議案 令和3年度競走馬理化学研究所における競走馬の遺伝子ドーピング検査法確立事業実施要領の制定について

第7号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所薬物検査法審議委員会運営規則の一部改正について

第8号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所DNA検査法検討委員会運営規則の一部改正について

第9号議案 競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

第10号議案 馬の親子判定及び個体識別のための検査の方法及び判定基準の一部改正について

第11号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所理事会が認める軽微な事項を定める通達の一部変更について

(報告事項)

1. 理事の職務の執行状況
2. 令和2年度第2回及び第3回財産運用検討会の審議結果
3. 電子公告により行う必要な事項の変更（公告用通信規格の変更）

第5回理事会 12月24日（書面による決議の省略）

(みなし決議事項)

議案 競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

3 人事異動

1) 参 与	就 任	0名	退 任	1名
2) 特別参与	就 任	1名	退 任	0名
3) 職 員	採 用	7名	退 職	4名
4) 嘱 託	採 用	4名	退 職	1名

役職員等の状況

区 分		1月1日現在	12月31日現在
役員	理 事	4 (1)	4 (1)
	監 事	2 (2)	2 (2)
参 与		1	1 (特別参与)
職員	総 務 部	7	7
	薬物分析部	23	25
	遺伝子分析部	7	5
	品質保証室	3	3
	小 計	40	40
嘱託	総 務 部	1	1
	薬物分析部	12	14
	遺伝子分析部	0	1
	品質保証室	2	2
	小 計	15	18
合 計		62 (3)	65 (3)

括弧内は、非常勤の人数で、内数である。

4 附属明細書の省略

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はないため、省略した。